トマス

シリーズ～弟子道～

2011/5/8

眼に見えない神が，眼に見える姿になられた目的

- 眼に見えない神は，私たちを何物にも代え難く大切に思っておられることを知らせるため
- 私たちの罪を精算し，眼に見えない神との関係を再開するため
- 眼に見えない世界が，眼に見える世界よりも大切であることを教えるため

そこに横たわる問題

- 眼に見えない世界のことを，眼に見える世界の私たちに教えなければならない
- イエス様自身も眼に見えない世界に戻らなければならない
  - そうしなければ弟子たちが眼に見えない神を「信じる」ことができない

そこに横たわる問題

- 眼に見えない世界のことを，眼に見える世界の私たちに教えなければならない
- イエス様自身も眼に見えない世界に戻らなければならない
  - そうしなければ弟子たちが眼に見えない神を「信じる」ことができない
- 眼に見えない神を信じることこそ大切であると眼に見える出来事を通して教えられた

役人の息子の癒し＜4章＞

- カファルナウムの役人の息子が病気で死にかかっていたとき，役人はすぐにでも来て，癒して欲しいと願ったが，イエス様は「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」と言われた
- 彼がその言葉を信じて帰ると，息子は治っており，しかもその時刻はイエス様が「あなたの息子は生きる。」と言われた時だった。
- そこで「彼もその家族もこぞって信じた」

盲人の癒し＜9章＞

- イエス様は，生まれつきの盲人を不思議な方法で癒された
- その日が安息日であったために，イエス様を憎んでいたファリサイ派によって，彼は迫害された
- イエス様は彼を探し出し，「あなたは人の子（イエス様自身）を信じるか」と尋ねられた
- 彼は「主よ、信じます」と答えた

ラザロのよみがえり＜11章＞

- イエス様の友人であったラザロが病気だと聞いたとき，イエス様はすぐに行かなかった
- イエス様が着いたときにはラザロは既に死に，四日経っていた
- もっと早く来て下されればラザロは死なずにすんだのに，と嘆く姉妹に，イエス様は「わたしを信じる者は、死んでも生きる」と言われた
- 「もし信じるなら、神の栄光が見られる」と墓の前で宣言し，ラザロを呼び出された

トマス（12使徒の1人）

- ヨハネ福音書20:24-29

「十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。

さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

- 見える世界は一時的であるが，見えない世界は永遠である
- 見える世界には価値はない。見えない世界にこそ価値がある
- 見える世界を生きている間，最も大切なのは見えない世界を「信じる」ことである

ゴスペル音楽

- アフリカから連れてこられた人たちにとって，眼に見える世界は最悪だった
- しかし，見えない世界を信じ，願い，希望とし，慕い，最悪の現実に耐えた。
- 彼らは信仰を彼ら自身の音楽にのせて告白し続けた
- その音楽は「ゴスペル（福音）音楽」と呼ばれるようになり，世界中で歌われるようになった

Nobody Knows the Trouble

Nobody knows the trouble I've seen, Nobody knows but Jesus.
Nobody knows the trouble I've seen, Glory hallelujah!
Sometimes I'm up, sometimes I'm down, Oh, yes, Lord!
Sometimes I'm almost to the ground, Oh, yes, Lord!

誰もわたしの悩みを知らない　イエス様のほかは誰も知らない
誰もわたしの悩みを知らない　（でも）主に栄光あれ，ハレルヤ！
時には元気で，時には落ち込む　そうです，主よ！
時にはどん底に沈みます　そうです，主よ！

「イエスはトマスに言われた。
『わたしを見たから信じたのか。
見ないのに信じる人は、
幸いである。』」